



第23号

2006.3



社団法人 千葉県緑化推進委員会

特集 全国的にも注目、2つのモデル事業を実施しました!

今年度、当委員会は2つのモデル事業を実施しました。一つは「サクラてんぐ巢病対策モデル事業」。もう一つは「学校林活動を促進するためのモデル学校林設置事業」です。そこで今回は、この2つのモデル事業についてご報告したいと思います。

サクラてんぐ巢病対策 モデル事業

サクラてんぐ巢病。これは枝の一部から小枝を多数発生して竹ぼうきのようになり、花付が悪くなる病気です。春を迎えても、花を咲かせることができないサクラの木は哀れなものです。これらは菌類のうち、子のう菌類のタフリナ菌に感染している状態です。そのてんぐ巢病が千葉県でも大変目立っていることから、当委員会では「千葉県さくらの名所20選」の木について、NPO法人「樹の生命を守る会」に実態調査を依頼。その結果、12カ所で「早急な対策を要する」、また5カ所で「時期をみて改善が必要」と診断されました。

そんな時これらの取り組みを後押しして下さったのが(社)ゴルファーの緑化促進協力会(GGG)です。ちょうど設立30周年を迎え、サクラをテーマとした記念事業を計画されている中で、関心を寄せていただいたのです。GGGと当委員会は綿密な意見交換を行い、現状把握のためのアンケート調査などを実施。その結果GGGから正式に事業協賛を受け、樹の生命を守る会や「千葉県さくらの会」、地元市町村等に協力を仰ぎながら、モデル事業が実施される運びとなりました。全国でもあまり例のない事業です。



図てんぐ巢病の被害部が垂れ下がり異常な形態となった樹形

2月中旬、サクラの名所、東金市の八鶴湖でてんぐ巢病対策のための検討会を開催しました。県内外の自治体や緑化団体関係者ら約30人が集まり、病気にかかったサクラの枝を切除する様子を視察してもらったのです。八鶴湖では植栽された約340本のソメイヨシノのうち、125本がてんぐ巢病の被害を受けていました。てんぐ巢病は、サクラの中でもソメイヨシノに

多く発生する病気です。感染すると2~3年で枝の先が使い込んだ竹ぼうきのようになります。病気が重くなると木が枯れることもあります。対策としては、発症した枝を早期に切り取ることです。まずは病気のことを知ってもらうこと、現場での作業を見てもらい、管理の仕方を学んでもらうことが必要でした。そのうえで対策を実施するための予算の算出など、一連のノウハウを提供することが、このモデル事業の目的の一つなのです。

今後は、今回の検討会を参考に、各自自治体等にも実際に対策に取り組んでもらえることを期待しています。てんぐ巢病被害状況の普及、保育の重要性を理解してもらうなど、モデル事業としての仕事はまだあります。花が咲いている時だけ楽しむのではなく、日常管理を継続的にやり、サクラを大切にしたいと思っています。てんぐ巢病の直接的な原因ははっきりしていません。しかし、地球温暖化で病原が繁殖しやすくなったのではという指摘もあります。私たち人間が自然環境に悪影響を与え、サクラに被害を及ぼすとしたら…。とにかく、できることを速やかにしなければ。そう思わずにはいられません。



図てんぐ巢病被害部の除去、腐朽部分を治療したソメイヨシノ。早めに気づいて対策に取り組み、花付きが回復した例

(社)ゴルファーの緑化促進協力会 (Greenery by Golfers Group)

昭和51年、環境省の許可により設立された公益法人。加盟ゴルフ場の協力を得てゴルファーからの緑化協力金(一人一日50円)を募り、学校や公園などの公共施設の緑化や環境保全等を推進している。これらの支援活動に加え、このたび団体創立30周年を迎えることから、記念事業の一つとして、てんぐ巢病対策に特別協賛いただくこととなった。当委員会では昭和52年度から累計5億円を超える支援を受け、公共施設等を中心に9万本以上の植樹(緑化を進めてきた。



1月11日、八鶴湖にてソメイヨシノの木を1本ずつ事前に調査。ボランティアほかの協力で、病気を発症している125本の貴重なデータを集めることができた



2月15日、東金市での現地検討会。はじめに商工会議所で、てんぐ巣病の感染程度や分布状況などの調査報告が行われた



同日、会場を八鶴湖に移動し、樹木医の解説を受けながら高所作業車で感染した枝の除去作業に立ち会った

学校林活動を促進するための モデル学校林設定事業

今年度、当委員会が実施したもう一つのモデル事業が「学校林活動を促進するためのモデル学校林設定事業」です。学校林はかつて、木を育て出荷することで得られる収入を子どもたちの教育に充てる、いわば教育財源の一部として存在していました。しかし現在ではその役割が薄れた代わりに、子どもたちの体験学習の格好の場として再びスポットを浴び始めたものの、整備が遅れている等の理由で活用が進まない状況も見られます。

このような中で、林野庁及び(社)国土緑化推進機構は、学校林活動を促進するための「モデル学校林」を設定し、青少年の森林体験活動の場として機能させるまでに整備をし、そのプロセスやノウハウを蓄積するとともに学校林活動を広く普及することとしました。

全国6つのブロックに各一をモデル学校林として設定する計画の中で、関東ブロックで想定されていたものは、都市の中の学校林でした。

当県にこの事業の打診があった際、以前から学校林活動について相談を受けていた流山市立東小学校を迷わず推薦。東小学校は、都心までわずか30分の距離で人口は15万人以上の都市部にあります。しかも、まさ

にこれから学校林活動をスタートさせようとする点や、完成までのプロセスを蓄積できるという点、そのうえ長い間人が足を踏み入れていないという森が隣接しており、既に森林所有者から子どもたちの教育活動に活用することを承諾していただいていることなど、多くの点で事業目的と合致し、結果、モデル学校林に設定されることになりました。

ところでその森(学校林)のこと。最初に目を向けたのは関下校長先生でした。校長先生は赴任してきた年、伝統行事の「がんばり走大会」のために、市内の公園まで移動する子どもたちの姿を見て、一工夫できないものか感じていました。学校のすぐそばには国道があり、移動にはかなりの注意が必要でした。また、グランドでの練習走では子どもたちがほこりだらけになっていました。ふと見回すと学校の裏手には緑深い森。「こっちこい、こっちこい」と鳴くコジュケイの声に誘われ、校長先生は藪と化した森に入ってみました。「この森が使えたら…。理科の先生としての鼻がびくびくと動きました。その思いを実現させるために奔走したのが志田教頭先生でした。森の地主さんも「怪我のないように、自由に利用してください」と快諾。学校林を整備したり、活用の推進にかかる費用について当委員会に相談されていたところ、とんとん拍子で「全国モデル学校林」の指定を受けることに。まるで運命のような流れで、東小学校の学校林づくりがスタートしたのです。



まだ、整備されていなかった頃の森の様子。けもの道だけを頼りにかき入った



6月～8月、PTAや父兄の方々、地域の皆さんも積極的に学校林づくりに参加。暑い時期だけに作業は過酷だった



やっとよくなってきたかな？電柱サイズの倒木が50本もあったが、今ではさわやかな風が通る森に

しかし、これからが大変です。約30年間もの長い間、まったく人の手が入らなかった約2haの森は、ほとんどジャングルのようなものでした。校長先生が篠竹を伐採する、ほかの先生たちも後に続く、話を聞きつけたPTAや地域の皆さんも作業に協力…。また森林の保全活動を行っている「NPOさとやま」が森に関するノウハウを提供するなど、多くの方々の協力で、当初は5年計画だった夢の学校林が、わずか1年で子どもたちを受け入れるまでになったのです。

「筋肉痛は激しいけれど、気分は爽快でした」と教頭先生。得意の技を生かして、立派な案内板や出入り口ゲートも作ってしまいました。

「がんばり走大会」は、18年度からは森林浴を兼ねた伝統行事に生まれ変わりそうです。さらに水辺ピオトープを作る計画も進んでいます。

「自然を粗末にしてしまうことは、人として恥ずかしいことです。子ども時代に自然と親しんでいれば、いずれ自然や緑を大切に思う大人に成長してくれるはずです。でもこれまでの作業はいわば基本整備。これからが勝負です。そして子どもたちも本当に楽しみにしてくれています」。校長先生をはじめ、関係者の意気込みはますます盛り上がっています。

緑化の事業には長い時間がかかります。未来の地球環境をより良い方向へ導くためにも、子どもたちにとって自然に親しむことは大切な経験です。当委員会でも今回の事業を通じ、学校林活動の意義を一層広めたいと思っています。

* 東小学校の学校林づくりは今後当委員会のホームページでも紹介していく予定です。



教頭先生が作った看板。子どもたちがつけた名前「かがやきの森」に負けたくないよう、金色を使ってみました、との弁



夏休み中には、正式に森体験がスタート。県展作品として学校林で絵を描いた。11月13日、「東っ子まつり」で保護者といっしょにオリエンテーリング。11月、「がんばり走大会」の練習会場として利用。いろいろなシーンで学校林が活用された。どんぐり拾い、落ち葉拾い、小枝での工作も楽しい思い出に



森の中でクロスカントリー。1周800mの林間ランニングコースが完成。長年積もった落ち葉で膝への負担も少なく、子どもたちにも大評判とのこと。新年度には「がんばり走大会」のコースとして活用する



「NPOさとやま」ほかの協力で作ったイラストマップ

当委員会では国民参加の森づくりの一環として、平成8年度から「みどりのボランティア推進事業」に携わり、森林の整備を中心としてボランティアの育成や活動グループの組織化などを進めています。その結果、みどりのボランティアとして登録された多くの会員が、研修や実践活動を通して森林づくりのノウハウを習得し、地域に根付いた組織的な活動にステップアップするなど、すばらしい活動をされています。

森林ボランティア活動は、ここ10年間で急速に拡大し、緑の募金と並んで国民参加の森づくり運動の一翼を担うほどになりました。一方、森林に代表されるみどりへの期待や要望は多様化しています。また、森林ボランティア活動の内容もバリエーション豊かになりつつあります。そこで今一度、森林ボランティアのあるべき姿を検証し、当委員会が今後も森林ボランティアの育成と活動の活性化に携わり、また継続的に実施するための柱となる「みどりのボランティア育成・活動促進方針」を策定することにしました。

はじめに、当ホームページにてパブリックコメントを広く募集しました。その結果、たくさんのご意見を頂戴することができました。「若い世代の参加者拡大にも力を注いで欲しい」「ボランティアと森林所有者との意思疎通を図るべき」「森林整備のマンパワーとしてみるには森林ボランティアはきわめてささやか」。そうしたご意見を考えに盛り込み、「千葉県緑化推進委員会みどりのボランティア育成・活動促進方針」が決定しました。

森林の整備・育成のための技術取得にとどまらず、森林や林産物等との広い関わりや、歴史や生活文化等も活動対象範囲に広げることが盛り込んでいます。

「体力には自信がないけれど、知恵ならあるぞ!」という方、「何ができるかわからないけれど、自然とかがわりたい」、「もっと深く森のことを知りたい」という方。当委員会は森林ボランティア活動への参加を通じ、一人でも多くの方に、木の文化、森林に代表されるみどりの重要性をご理解いただけるよう願っています。

「みどりのボランティア」が進化しはじめました。



④みどりのボランティアのいろいろな活動。講習会や研修会を通じて、知識を習得する



⑤子どもたちの森林体験教育の指導(サポート)も



⑥いぶした竹の活用方法を教えたり広めたり...。新たな育成・活動方針には、森林と生活文化とのかかわりも盛り込んだ



⑦森林での実践作業の様子

緑

自

慢

君津市立北子安小学校が、第29回全国育樹祭併催行事「全国緑の少年団活動発表大会」（兵庫県開催）に出場できる、全国でわずか7団のうちの一つに選ばれました。

全国で組織されている約4,000団の緑の少年団の中で7団に選ばれること自体、大変なことです。北子安小学校みどりの少年団が発表した活動内容は、さらに大きな評価を得ました。なんと審査の結果、翌日に開催される全国育樹祭において「大会会長賞」を受賞する「代表団」に選ばれたのです。その第一報を教頭先生から受け取った校長先生は「なに？代表受賞団？そりゃ、たまげた！」と絶叫。北子安小の児童生徒、歴代の先生方や地域の皆さん、PTAの皆さんの顔が次々と目に浮かび、感謝の気持ちでいっぱいになったそうです。

北子安小学校の緑の少年団は、開校翌年の昭和59年に結成され、今年で22年目を迎えました。結成2年後には「君津市教育委員会研究指定校」となり、本格的に活動し始めました。現在のおもな活動の場は、隣接する「北子安の森」。PTAや地域の皆さんの協力を得

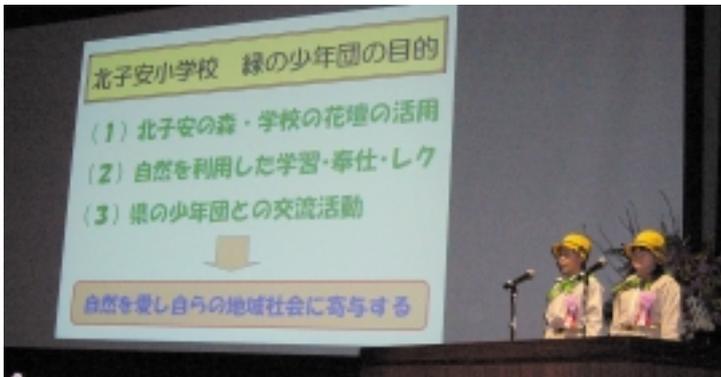
て、少しずつ整備し、学習に取り入れたそうです。校長先生はかつて教務主任として北子安小学校に赴任していました。自然の豊かさを感じながら教育活動を進める…。その教育理念は、約20年を経て、校長先生として戻って来た時も変わっていませんでした。子供たちが自然に親しむ気風はもとより、歴代の先生方やPTAの皆さんによってその教育理念は脈々と受け継がれてきたのです。今回の快挙は、22年間に渡るそうした姿勢の成果だと校長先生はお考えです。

ところで、今回の発表大会での発表題目は「『北子安の森』の自然の恵みを生かした活動」。これまでの活動をわかりやすく説明したものです。そして北子安の森が、人と人とのつながりにも役立っていることを述べました。子どもたちを代表し発表したのは、永田美保さんと平野奈美さん。たくさんの人々の前でも堂々と発表することができました。また翌日は皇太子殿下ご臨席のもとで、参議院議長・扇千景大会会長から直接、大会会長賞を受賞することもできました。

「森や自然を学習に生かすことは、これからも継続していきたいですね。それが子どもたちの血となり肉となると思うのです」と校長先生。5haの山を管理することは容易なことではありません。先生たちの作業する音を聞きつけると、「ちょっと待っていなよ」と言って地域の方がすぐに手伝いに集まる環境。そうした暖かい気持ちの通う教育の場。そして何よりも、森を育てそこから多くを学ぼうとする子どもたちの、長きに渡る活動の積み重ねが、今回の快挙を成し遂げたのでしょ



樹木ラベルの取り付け。手作りの説明書もいっしょに付けよう



第29回全国育樹祭併催行事「全国緑の少年団活動発表大会」にて、「北子安の森」の自然の恵みを生かした活動を発表

オススメします。この本



「熱帯雨林から、ヤッホー！」 八束澄子著

児童文学作家・八束澄子さんが、飛行機事故で亡くなった京都大学生態学研究センター・井上民二教授の、「ジャングルはむちゃくちゃおもしろい」という言葉に触発され、「熱帯雨林のことをもっと知りたい、このおもしろさを子どもたちに伝えたい」と親子で乗り込んだマレーシアのジャングル。競争ではなく共生の関係で生きる生き物と森のすばらしさが狂巻。

新日本出版 1,400円（税別）



「みどりの香り」 植物の偉大なる知恵 畑中顯和著

みどりの香り、植物の葉っぱの匂いには、大きく分けると4つの特色がある。まだ未解明な部分も残るこの香りの研究の基礎から最前線をわかりやすく解説した本。「森の香り」、「みどりの香りの正体！」など、興味深いイントロから始まるが、読み進むとその内容はかなり専門的などころにまで踏み込んでいる。この道の第一人者が語る待望の入門書である。

丸善株式会社 2,200円（税別）

上記の本、「熱帯雨林から、ヤッホー！」を2名に、「みどりの香り」を1名の方にプレゼントします。ハガキに、希望する本、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、(社)千葉県緑化推進委員会「プレゼント」係へご応募ください。また、グリーンえっせんすをどこでご覧になったか、ご意見、ご要望もお書き添えください。あて先は8ページ右下参照。締め切りは7月末日（当日消印有効）。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

企業の中の緑

東京電力(株)
新木更津変電所
(木更津市)



千葉県内にはいくつかの発電所があります。たとえば富津火力発電所、袖ヶ浦火力発電所など。新木更津変電所は、そのうち

の富津火力発電所で作られた電気を、使用目的にあった電圧に変換し、千葉県下や首都圏へ送電する役割を担うと同時に、自然災害などが発生した場合、電気の流れをコントロールする施設として、平成13年に運転を開始しました。

場所は、遠く九十九谷まで見渡すことのできる上総丘陵の一角。敷地面積は約36haです。私たちの生活に欠かすことのできない電力。それを安定的に供給してくれるための施設ですが、建設にあたっては造成工事が必要でした。とはいえ、自然を大切にすることは東京電力の社風でもあります。そこで新木更津変電所は造成工事にあたり、既存の森林の移植や、植物を種から育てて斜面の緑化や森林の育成を図るなど、自然の力を活用した森林復元を行ったのです。

さらに、広大な敷地の中にあつた池や沼を自然のままに残しながら、敷地内に降った雨水を一時貯留する調整池からの排水路に、約2haのビオトープを設けたのです。まさに自然と共生する変電所の誕生です。150mにわたる間伐材を利用した木道、職員さんたちによる草刈…。ビオトープのあちらこちらに人の手のぬくもりが感じられます。

また、見学者用のトイレにも工夫がありました。バイオ・トイレといって、水の代わりに杉のチップを用いたトイレなのです。チップの中には微生物がいて、

排せつ物を水と炭酸ガスに分解してくれるのだそうです。微生物を活性化させるために、便槽内を攪拌するモーターの動力も太陽発電と風力発電で、エコロジーに徹しています。

「あの、小川にはサンショウウオがいるらしいですよ。この木にはカブトムシがよく来ますよ。でも、内緒にしてくださいね。捕まってしまうのはかわいそうですからね」と館野所長さん。もちろん楽しいことばかりではありません。特に竹の繁殖力には手を焼いているそうです。それでも、ここを楽しみに来てくれる人がいるなら、なるべく安全に散策してもらえよう、せっせと時間を見つけては作業をするのだそうです。

地域の皆さんが毎朝の散歩コースにする新木更津変電所のビオトープ。一度、訪ねてみてはいかがでしょうか。

*ビオトープの散策は自由ですが、施設の見学には事前申し込みが必要です。(ただし団体単位での受付のみ)



(社)国土緑化推進機構を中心に、全国の緑化推進委員会が展開している「もりのくに・にっぽん」運動。森林を守り育て、その恵みを活かして、持続的に循環させようというものです。そこで、森林に関わる人とそこから生まれた文化に注目し、全国から「森の名手・名人100人」を選定。今年、千葉県では4人の方が名手・名人に選ばれました。

加瀬忠雄さん(多古町・88歳)

50歳から造林手(枝打ち)に従事し、37年間にわたって、鍛冶屋に特注した木登り爪と安全ベルトを使った技法で枝打ちを行い、今ではその技法の第一人者として県内外に知られる。

古宮一雄さん(南房総市・83歳)

14歳から69年間にわたって、江戸時代から続く木工農具づくりに励み、森と農との関わりを今に伝える。現在でも年間2,000本余りの鋏の柄や太鼓のバチなどを制作。

芝崎義助さん(君津市・71歳)

50年間にわたって、県南部や中部地域で炭窯づくりや炭焼きの指導にあたり、地域にあった炭窯の改良に努める。また燃料用炭から鑑賞用炭まで、幅広く技術を有す。

高木守人さん(いすみ市・78歳)

25年間にわたり楊枝制作に励み、材料となる「くろもじ」の美しい木肌と木肉の白さを活かした「いすみ楊枝」は、県伝統工芸品の指定を受けている。

森の 名手・名人



緑の募金でふせごう地球温暖化！ 春季・緑の募金にご協力ください

平成18年度 緑の募金運動

■目標額3,500万円

3月1日から5月31日まで県内全域で「春季・緑の募金」運動を行っています。募金運動の方法は各市町村で異なりますが、募金は当委員会、各市町村窓口、募金箱設置にご協力の企業・団体の事業所等で受け付けております。

県民の皆様の深いご理解と暖かいご支援をお願いいたします。



◎企業・学校等職場単位での募金や催しなどでの募金、また店舗や窓口等における募金箱の設置も推進しております。ご協力、ご関心のある際は当委員会までご連絡下さい。



平成17年度においては緑の募金法に基づき、春季、秋季の2回を実施し、その募金総額は目標額を上回る35,933,849円に達しました。

お寄せいただいた募金は、みどりあふれるさわやかな環境づくりを目指し、学校や公園といった公共施設の緑化、緑化思想の普及啓発、緑の少年団の育成に代表される森林環境教育、また森林整備ボランティア活動の支援などに大きく役立てられました。

またその一部は世界規模での緑化運動や森林の整備にも役立てられています。

平成17年度公共施設等の 環境緑化事業を実施しました

(社)ゴルファーの緑化促進協会並びに県内協力ゴルフ場、各企業様からの緑化事業協力金により市町村から希望が寄せられた下記6カ所の公共施設等に植樹を行いました。

ふるさと千葉に、新たなみどりが増えました。

栄町	栄町ドラムの里	カワヅザクラほか21本
野栄町(匝瑳市)	野栄ふれあい公園	ウバメガシほか212本
睦沢町	女ヶ堰農村公園	ヒガンザクラほか20本
御宿町	御宿中学校	タブノキほか641本
大網(いづみ市)	サンライズガーデン	タイサンボクほか263本
鋸南町	菱川師宣記念館進入路	モッコクほか780本



国土緑化運動ポスター原画コンクール 展示会のお知らせ

平成17年度国土緑化運動ポスター原画コンクール入賞作品の展示会を下記のとおり実施します。県内の小・中学生がみどりへの想いを表現してくれたすばらしい作品の数々をどうぞご覧下さい。

本年度は過去最高の応募数9,850点に達し、大変多くの子どもさんたちに参加いただきました。また全国コンクールでも本県から2点が入賞するなど極めて優秀な成績を修めています。

当コンクールはH18年度も実施します。たくさんの作品をお待ちしております。

期間	場 所	展示作品
4/24～ 5/1	千葉市中央区市場町1-1 「千葉県庁19階県民展示コーナー」	特別賞 特選の計36点
5/15～ 5/26	千葉市中央区中央2-4-1 千葉信用金庫 本店	特別賞の 計12点
6/6～ 6/25	印西市多々羅田159 「県立北総花の丘公園花と緑の文化館内」	特別賞 特選 入選の計72点
7/18～ 8/8	柏市柏の葉4-1 「県立柏の葉公園センター内」	特別賞 特選 入選の計72点

*展示作品は展示場所により、上表のようになっています。

*展示期間中の会場休館日は除く。

また会場等の都合により展示期間等が変更になる場合もございますので、最新の情報は当委員会ホームページでご確認下さい。



表紙の絵

表紙の作品は平成17年度国土緑化運動ポスター原画コンクールにおいて、小学校低学年の部で特別賞(知事賞)を受賞した、印西市立永治小学校1学年長谷昌彦さんの作品です。なおこの作品は全国審査会で(社)国土緑化推進機構理事長賞を受賞いたしました。



グリーンえっせんず 第23号

2006年3月31日発行

発行/(社)千葉県緑化推進委員会

URL <http://www.c-green.or.jp/>

〒299-0265 袖ヶ浦市長浦拓2号580-148

TEL.0438-60-1521 FAX.0438-60-1522

印刷/凸版印刷(株) TEL.043-350-5611